

平成29年度第1回野菜需給・価格情報委員会消費分科会の意見概要

1 日時

平成29年7月11日（火）13:30～15:30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

事務局から「最近の消費・輸入動向等について」（資料1）を説明の後、夏秋野菜の需要見通しについて、意見交換。その結果を踏まえて小林座長が取りまとめ、各委員の了承を得た上で、7月20日開催の平成29年度第1回野菜需給・価格情報委員会に報告することとなった。

平成29年産夏秋野菜の需要見通し等の概要及び最近の消費状況等に関する委員からの意見の概要は以下のとおり。

○ 夏秋野菜の今後（7～10月）の需要見通しの概要

(1) 主要6品目

① キャベツ

- 今夏の猛暑予想から加熱調理の需要は減少すると考えられる一方で、カットサラダの需要は堅調であると考えられることから、需要は平年並みを見込む。

② だいこん

- 夏場は消費の減退期であり、売場も1本売りは小さく、1/2カットが大半を占めている。
- 一方、和風ドレッシングを使った定番だいこんサラダが近年定着してきており、カットサラダが堅調なことから需要は平年並みを見込む。

③ たまねぎ

- たまねぎの消費量が多い学校給食が夏休みで無いものの、オニオンサラダ（カットサラダ）の需要が伸びており、家庭内の消費頻度が高く堅調であることから、需要は平年並みを見込む。

④ にんじん

- にんじんの消費量が多い学校給食が夏休みで無く、今夏の猛暑予想から消費量は減少すると考えられるものの、7～8月は、カレー用の消費頻度が高まる時期であることから、需要は平年並みを見込む。

⑤ はくさい

- 過去に夏場のサラダ用はくさいを何度も繰り返し導入したこともあったが消費は低迷した。夏場は需要期ではなく、9月以降の鍋需要を見込んでいることから、需要は平年並みを見込む。

⑥ レタス

- 今夏の猛暑予想もあり、夏場のサラダ需要は継続すると考えられることから、需要は平年並みを見込む。
- 現在はレタスの相場が安いので、使い切りのカット野菜よりも、冷蔵庫で保管しながら消費できる原体の需要が堅調。

(2) その他品目

① きゅうり

- 今夏の猛暑予想もあり、夏場のサラダ需要、漬物需要は継続すると考えられることから、需要は平年並みを見込む。
- 今後は加熱商材の浸透によっては微増の可能性はある。

② トマト

- 今夏の猛暑予想もあり、夏場のサラダ需要は継続すると考えられることから、需要は平年並みを見込む。
- 現在トマト相場が安いいため高リコピン、フルーツ系トマトなど付加価値の高い商材の価格が下がっており需要増の可能性はある。

③ ねぎ

- 今夏の猛暑予想から加熱商材としての白ねぎの需要は減少するものの、薬味用のカットねぎは使い勝手が良く、冷凍して保存も効くので需要が伸びていることから、需要は平年並みを見込む。

○ 最近の消費状況等

- (1) 貿易統計によると、生鮮野菜の輸入量は、昨年7月以降10カ月連続で前年同期比を上回っている状態にあるが、今後とも輸入が増加すると見込まれる生鮮野菜について
 - 南半球（オーストラリア、ニュージーランド）で栽培される野菜は輸入増加。
 - たまねぎ、にんじん、レタスに関しては輸入はさらに需要大。
 - 冷凍業務用の国産野菜が不足。特に、えだまめ、トウモロコシ、いんげん、オクラ、ブロッコリーなど、輸入品が増える見込み。
 - 昨年度の異常気象下での輸入増は想定内と思う。
 - 現下の生産現場は後継者が付かず、高齢化に伴い労働力が減少している中で、輸入野菜等への依存度は高まってくると思う。

- (2) ここ2年間、9～10月にかけての台風の襲来や秋雨前線の停滞により野菜価格の高騰が見られるが、流通サイドとして今年度における対応について
 - 野菜価格の高騰が長期継続する場合は輸入を実施。
 - 農業法人などの経営面積を拡大する必要。
 - 国産のみ扱いなので、国内生産者との契約数量で確保する。国産のプレミアも考慮する。
 - 今年度に関しては平年作予測の中で、主要品目では対応産地を拡大してのリスク分散を行う。
 - 3年前から韓国農協と今後の供給提携の約束をかわしている。

- (3) 前記「夏秋野菜の今後（7～10月）の需要見通し」に係る品目以外で、今夏の注目すべき野菜について
 - アスパラガス
 - ズッキーニ、ケール
 - オクラなどの果菜類の人气が上昇している。
 - 茶豆などのおいしい豆類。
 - ブロッコリー、ミニトマトなども売れ筋。
 - 卸売市場には流通していないような郷土野菜等の販売強化をしていきたい。例えば、八丈島の島おくら（丸おくら）など。